



松庵だより

第716号 3月号
令和8年2月27日
杉並区立松庵小学校



「 たゆまぬ歩みを共に支えて 」

校長

春の暖かさが少しずつ感じられるようになり、子供たちの姿にも進級への期待がふくらんでいることを感じます。今年度も残りわずかとなりました。この一年、地域・保護者の皆様に支えていただきながら、子供たちは日々の生活や学習を通して確かな成長を積み重ねてきました。あらためて深く感謝申し上げます。

校長室に彫刻家・北村西望の詠んだ句、「たゆまざる 歩みおそろし かたつむり」が飾られています。北村西望は長崎の平和祈念像の作者として知られ、102歳で亡くなるまで創作を続けた人物です。この句には、具体的な体験が込められています。平和祈念像を制作していたある晩、足元に一匹のかたつむりがいたのを見かけた北村西望は、翌朝、その同じかたつむりが高さ10メートルを超える像の頂上に登っているのを見つけたといいます。「たゆむ」とは“心がゆるむ”という意味で、「たゆまざる」とは“心をゆるめず、油断せず続ける”ことです。歩みは遅くても、休まずに積み重ねていけば、やがて大きなところまで到達できる。北村西望は、そのかたつむりの姿に、人が努力を重ねることの尊さを重ね合わせたのだと思います。



子供たちの日々の成長は、この“かたつむりの歩み”と重なります。学習面でも生活面でも、一気に大きく伸びるわけではありませんが、少しずつ、確実に歩んでいます。「昨日の自分より、今日の自分が少し成長する」その積み重ねが、やがて大きな力になります。間もなく進級を迎える子供たちが、新しい環境の中でもあきらめずに歩み続けられるよう、引き続き丁寧に指導してまいります。どうか各ご家庭におかれましても、子供たちが自分のペースで努力を続けている姿を、温かく見守り、励ましていただければ幸いです。今年度も、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。来年度も、子供たちのたゆまぬ歩みを、学校と地域・保護者がともに支えていける一年となりますよう願っております。

3月の生活目標 「学校をきれいにする」

1年間、子供たちが安心して過ごしてきた校舎に感謝の気持ちを持ち、日々の清掃やピカピカデーの時間を使って、普段は手が届きにくい場所まで丁寧に掃除を進めています。自分たちが使った教室や設備を整えて次の学年へ引き継ぐことは、次に使う人への思いやりを育てる大切な学びでもあります。子供たちが「きれいにすること」そのものに価値を見だし、主体的に取り組めるよう、日々の声掛けや活動を工夫しながら支えていきます。気持ちよく1年を締めくくれるよう、引き続きご家庭とも連携してまいります。